

視点を変えれば、  
世の中は変わる。

たとえば

半分だけ水の入ったコップを見て、  
もう半分しかない、と思うか、  
まだ半分もある、と思うか。

視点をさええれば、

世の中の見え方は変わってきます。

当たり前だと思っていたことでも、  
違う視点から見つめ直してみると、  
新しい発見があることがあります。

Rethinkフォーラムは、

一人では気づけない

新しい視点に気づくことで、

地域活性化のきっかけを見つかる場です。

視点を変えれば、世の中が変わる。

地域が変わる。

未来を変える発見は、

意外と身近に

あるのかもしれない。

「Rethink フォーラム～視点を変えれば、世の中は変わる。」(佐賀新聞社主催、佐賀県、佐賀県教育委員会、佐賀市など後援、Rethink PROJECT 協賛)が3月26日、佐賀市のガーデンテラス佐賀 ホテル&マリトピアで開かれました。第1部は漫画家の倉田真由美さんが「くらたま流 スッキリ生きる方法」と題してトークを展開。第2部では佐賀県の山口祥義知事と萬坊(唐津市)の太田順子社長が加わり、「Rethink 佐賀 ～アニメの力で地域振興～」をテーマにしたパネルディスカッションで、アニメを活用した観光戦略などを語り合いました。要旨を紹介します。

## ゲスト

くらたまゆみ  
倉田 真由美 氏 (漫画家)

演題：くらたま流 スッキリ生きる方法

1971年福岡県生まれ。一橋大学卒業後、「ヤングマガジンギャグ大賞」を受賞し、漫画家デビュー。2000年からダメ男を好きになる女性のリアルな生活を描いた「だめんず・うぉ〜か〜」の連載を開始。マンガやエッセーなど執筆活動のほか、各メディアで恋愛から政治問題まで幅広く「くらたま流」のコメントを発信し続けている。

## 自分を見つめ直すきっかけ

新型コロナウイルスの流行をきっかけに、自分の視点や生き方を変えざるを得なかった人も多いのではないのでしょうか。私も同世代の友人に、居酒屋の女房から人形の洋服作家へ、ライターから漫画家へと転身した人がいます。新型コロナによって仕事を失い、やむを得ずという状況でしたが、新しい世界を切り開き、充実した毎日を送っているようです。

私が大学卒業後に漫画家になったのも、実は就職活動がうまくいかなかったから。外的要因がきっかけだったのです。でも、結果として漫画家になってよかったと思います。人生、何が幸いるか分かりません。

## ★つらいことも前向きに

代表作の「だめんず・うぉ〜か〜」は、ダメ男にはまった女性たちの体験談を基に描いたものです。人の話を聞くのは面白く、ちょっとした旅に出るくらい驚きやインパクトがあります。

そういう私自身の夫も、借金して自己破産をした人です。もし私が夫の立場だったら、不安で眠れない夜が続くと思うのですが、今の本人はさほど気にせず、毎日、普通に寝ています。不幸を不幸としてとらえない人の方が、健康的なのかもしれません。

私の地元、福岡には世界最高齢118歳の田中力子さんという女

性があります。長い人生、つらいことも多々あったはずですが、力子さんは「つらかったこと? 何もない」とはっきりおっしゃるのです。この力強さこそが、長寿の秘訣だと思いました。

元プロ野球選手の新庄剛志さんは、48歳で球団のトライアウトに挑戦されましたよね。常識やプライドにとらわれない前向きな姿に勇気をもらいましたし、自分自身を見直すきっかけにもなったと思います。

## ★もやもやをスッキリ! その秘訣は?

私はいろんなニュースを見聞きするのが好きですが、なかでも大切にしているのは人と話すこと。同じニュースでも友人らと意見交換すると、まったく違う視点が見えてきかけられ、自分一人では到達できない領域を知ることができるのです。

ところがコロナ禍になって、人と人との距離が広がってしまいました。おのずと視野が狭くなり、思考も内向きになりますよね。そこで、私なりのスッキリ生きる秘訣をいくつか紹介します。

まず一つ目は「仲間をつくること」。先ほど言ったように、仲間がいることで多様な視点が得られます。世界的な天才物理学者アインシュタインも、「仲間がいたおかげでいいことがたくさんあった」と言っていたそうです。

次に「不幸を不幸としてかみしめすぎないこと」。自分自身に向き合うと、過去の失敗やつらさをつい何度も思い返してしまいま

すが、それは思考の癖かもしれません。ですから、何か別のことに没頭して、不幸から意識を切り離すようにしましょう。

## ★視点を変えてみよう

さらに「やり続けること」も大切。新しいことを始めると、壁にぶつかることがあります。私も2年ほど前にデジタルで漫画を描こうとしましたが、覚えることがありすぎて紙に逆戻り。でも、友達と励まし合って続けるうちに、最低限は描けるようになりました。

最後は「体を動かすこと」。体と脳は表裏一体の関係で、運動することで思考が活性化します。私も仕事に行き詰まった時に外を歩いてみると、ネタがぱっと思い浮かぶことがあるのです。最近なら登山ですね。若い頃はお金を積まれてもしたくなかったのに、数年前に一度やってみたら思いのほか楽しくて、今ではいい気分転換です。

コロナ禍によって、家で過ごす時間が増えた今、何か一つでも新しいことに挑戦してみたら、新たな発見や出会いがあるかもしれません。もし2、3回やって違うと思ったら、また別のものを探せばいいのです。

人間はどうしても立ち位置を変えることに戻込みしがちですが、今までは違う視点を持ってみると見聞が広がり、自分のプラスにもなると思いますよ。

## テーマ「Rethink 佐賀 ～アニメの力で地域振興～」

パネルディスカッション出演者 倉田 真由美 氏、山口 祥義 氏 (佐賀県知事)、太田 順子 氏 (萬坊 代表取締役社長)、福本 真理 氏 (佐賀新聞社編集局報道部記者)

## モデレーター

## 時代を先取りしたアニメ戦略

**福本** 近年、佐賀県を舞台にしたテレビアニメが人気となり、「聖地巡礼」と称して佐賀を訪れる観光客も増えています。そもそも佐賀県は東京にアンテナショップを持たず、その予算で「サガブライズ!」という情報発信事業を展開。アニメをはじめ、ゲームやブランドなどとのコラボを行い、話題作りをしていますね。

**知事** 日本のポップカルチャーは世界で人気ですね。佐賀県も時代を先取りし、佐賀の本質的な魅力を世界に発信するため、アニメ、ゲームなどを活用したプロジェクトに取り組んでいます。

最近の話題作は『23時の佐賀飯アニメ』。竹崎力二や北方ちゃんぽんといった地元グルメをアニメ化してSNSで発信したところ、100万回を超える再生があったそうです。ほかにも、さまざまな作品とコラボしています。佐賀県庁には多彩な人材が集まっていて、いろいろな経験を持つ人がチームを組むことで面白い取り組みができています。

**倉田** アニメは世界に訴えることができるので、その着眼点は素晴らしいと思います。アンテナショップを作るのもいいけれど、日本国内のアービールに限定されがち。世界に発信する佐賀のアニメ戦略は、新しく面白く試みだと思いました。

**知事** アニメの訴求力は本当にすごい。唐津を舞台にした「ユリ!!! on ICE」や「ソニランドサガ」がテレビで放映されると、多くの若者たちが唐津を訪れました。

**倉田** アニメの聖地巡礼は全国的に盛んです。アニメ映画『君の名は。』では岐阜県に、「鬼滅の刃」では福岡の龍門神社に大勢のファンが訪れ、大きなニュースになりました。

**太田** 唐津では、「ユリ」の実家のモデルとなった温泉施設に連日、全国からファンが詰めかけました。登場人物の衣装をまとい、唐津を歩く若者の姿も見られます。また、老朽化していた市歴史民

俗資料館は『ソニランド』の舞台となったことがきっかけで、建物の修理・活用の議論が高まりました。

**福本** 唐津市と「ユリ」のコラボ事業では、約1年半で延べ6万人以上が訪れ、4億円以上の経済効果があったとか。こうしたアニメ戦略を、地元企業はどう生かしていますか?

**太田** 当社はアニメのキャラクターを使って、お菓子などのコラボ商品を企画し、発売しました。通常のネット販売ではお昼から夕方にかけての受注が多いのですが、このコラボ商品は深夜のアニメ放送後に注文が入るのです。アニメ愛が購買を後押しするでしょう。今までも違う客層の広がりを実感しました。

## 佐賀の魅力を発信しよう

**福本** 倉田さんの佐賀の印象も変わったのでは?

**倉田** 今日は佐賀のアニメ戦略を知り、ポテンシャルの高さを感じました。今後、移住希望者も増えるのでは? 私の友人のコラムニストも東京から唐津に移住し、住みやすいと絶賛していました。

福岡の糸島市は数十年前まで田舎だったのに、今ではおしゃれな田園都市に様変わりし、全国から観光客や移住者が押し寄せています。佐賀も糸島のような可能性があるかもしれませんね。

**知事** 佐賀には、都会的なものの以外、大切なものがたくさん詰まっています。豊かな自然や歴史・文化があって、グルメも充実し、最近はスポーツも強い。福岡に近いので都会的な部分も楽しめます。何より、人と人のつながりが温かく、とても居心地がいい。

「肥前さが幕末維新博覧会」を開催した時、「佐賀人で良かった」という声が多く聞かれました。佐賀人である誇りやアイデンティティを若い世代にしっかりと伝えていきたいと思っています。

**太田** 私も佐賀の近代史を学び、偉大な業績を残した賢人たちが佐賀から多く輩出されていることを知り、郷土愛と誇りが強くなりました。

**知事** グローバルな時代では、郷土愛をもつことは国際人に必要な要素です。佐賀の賢人たちの先進性にならない、世界に挑戦できる地域だということを、学生時代から学ぶ機会をつくってきたいですね。

**福本** 企業の立場で、県のコラボ事業にどんなメリットを感じますか?

**太田** 普段なかなかご縁のない業種や大手企業の方々と一緒に仕事ができて、とても勉強になり、新たな客層の開拓にもつながっています。今後もこうしたコラボ事業を活用して、一緒に佐賀の魅力を発信していきたいですね。

**福本** アニメ戦略の今後の展望は?

**倉田** アニメになじみがない人は理解しづらいかもしれませんが、熱狂的なファンを生み出すコンテンツであることに間違いありません。たとえば『鬼滅の刃』は世界中で大ブームを巻き起こし、2000億円を超える経済波及効果をもたらしました。

アニメはどんな物語や言語でも表現できるので、無限の可能性があります。しかも「サガ」という響きは、海外の人にとって発音しやすく、覚えやすい。この点で佐賀に利点があると思いますよ。

**太田** 呼子のイカが有名になり始めたのは、50年ほど前のこと。いかしゅうまいの歴史もわずか35年程度しかありません。でも、今では呼子名物として立派に定着しています。

佐賀のアニメを見て育つ子どもたちも、大きな可能性を秘めています。もしかしたら皆さんの子や孫が将来、有名なアニメ作家になり、佐賀を元気にしてくれるかもしれません。「そがんアニメばっか見て!」と言わず、温かく見守ってほしいです。

**知事** 佐賀県は今年、宇宙航空研究開発機構(JAXA)と連携協定を結びました。歴史や伝統を大事にしつつ、新しいものを取り入れてきた佐賀でイノベーションを起こすため、今後もさまざまな人や企業・団体とコラボしながら、新しいものを生み出していきたい

ですね。

**倉田** 私も同じ九州人として、九州が一体となって発展できたら素敵なことだと思います。これからみんなで佐賀を盛り上げていきたいですね。

